

北九州市立菊陵中学校
学校だより
令和4年11月4日号
校長 上赤義人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

保護者・地域の方へ

先日、ある雑誌の「アドラー(心理学者)は私たちの悩みのほとんどは人間関係に起因する」というものにうなずいてしまいました。その雑誌の続きを下に紹介します。どんな場面でも楕円の関係を意識しながら進めていきたいものです。

人権について 12/4から人権週間

「人権とは？」と尋ねられた時、みなさんはどのように答えますか。少し難しいかもしれません。では、「くだもの(果実)とは？」と尋ねられたら、どう答えるでしょうか。「甘い」「酸っぱい」「りんご」「みかん」…と答えるでしょう。「甘い」「酸っぱい」などは、くだもの一般的なものであり、「りんご」「みかん」などは、くだもの個別的なものになります。

では、もう一度「人権とは？」について考えてみましょう。例えば「誰もが幸せになれる権利」「決して侵すことのできない永久の大切な権利」等と答えるかもしれません。これが一般的な人権です。また、「女性・高齢者・障がい者・外国人等の問題です」と答えることもあるでしょう。これは、個別的な人権です。わが国では、個別的な人権としての課題がいくつかありますが、みなさんはいくつ知っていますか？法務省は17の課題を挙げています。

- 1 女性 2 子ども 3 高齢者障害 4 障がい者 5 同和問題(部落差別)
- 6 アイヌの人々 7 外国人 8 HIV感染者等
- 9 ハンセン病患者元患者・その家族 10 刑を終えて出所した人
- 11 犯罪被害者とその家族 12 インターネットによる人権侵害
- 13 北朝鮮当局による人権侵害問題 14 ホームレス
- 15 性的指向及び性自認 16 人身取引 17 東日本大震災に起因する差別

私たちは、誰もが幸せになれる権利であり、決して侵すことのできない永久の大切な権利である人権が、侵害されている現実を正しく理解し、それは決して許さないという認識をもつことが大切です。12月4日からの人権週間を前にして一人一人が自分ごととして考えましょう。

私が小学校教師の時にコンパスを用いて「円」を教えないといけなかった。子どもたちに身体で「円」を実感してもらいたくてみんなで運動場に出た。ボールを2本立ててその間にロープをかける。片方のボールを持つ子には「君は動いてはいけないよ」と言い、もう一方の子に「君が走りなさい」と指示する。運動場に大きな円が描き上がる。動かなかったボールを指して「これを中心と言います。みなさん見ていたでしょう。ここからの長さは皆同じ長さです。これを半径と言います。」こうやって円を教えた。

次にこの時期には教えなくてもいいのだけれど、学習への興味付けに「楕円」を知ってもらおう。「円が少しつぶれたようなきれいな図形、楕円を描いてみようか」といい、ボールを3本立てる。その3本にロープをかけて、そのうちの2本のボールを持つ子に「動いてはいけないよ」と言い3本目を持つ子には「君が走りなさい」と指示する。するときれいな楕円が描き上がる。動かなかった2本のボールは焦点と呼ばれ、動いた3本目の描いた軌跡が楕円になる。つまり楕円には中心(焦点)が2つあり、その2点との距離の合計量が常に等しくなるのが3本目の描く楕円なのである。楕円にはまったく対等である2つの中心があり2点との距離の合計量(例えると2人の幸せの合計量)が常に等しいのがこの楕円という図形なのである。

この楕円が教えてくれるように対等な感覚とは「自分と対等なもう片方があることを常に意識できること」である。人間関係では円のように自分を中心軸に考えてはいけない。この世の中は楕円の構造である。自分と全く対等の中心がもう片方にあることを常に忘れないようにしたい。目の前の人との幸福の合計が同じ

「ウィーン・ウィーン関係(平等)」をを目指したい。夫婦関係では夫と妻はどちらも中心であり対等である(夫婦楕円満)、親と子も対等、社長と従業員もしかりである。

この「対等の感覚を人権感覚」と呼びたい。

北九州市立大学 名誉教授 中島 俊介

